

日時 2011. 12. 29 (木) ~ 30 (金)
山域 南ALPS・甲斐駒ヶ岳 (2956m)
コース 29日=竹宇・駒ヶ岳神社~黒戸山~七丈小屋 (泊)
30日=七丈小屋~甲斐駒ヶ岳~七丈小屋~駒ヶ岳神社
参加者 後藤隆徳 (64歳10ヶ月)、村山忠彦 (64歳1ヶ月) 小松眞明 (52)
標高差 上り 駒ヶ岳神社約775m~七丈小屋約2420m=1645m
七丈小屋約2420m~甲斐駒ヶ岳2956m=約536m
下り 甲斐駒ヶ岳2956m~駒ヶ岳神社約775m=約2181m



1. 12月29日 (木) 晴・暖
竹宇・駒ヶ岳神社発 7:35
4年連続の年末年始の甲斐駒ヶ岳登山。今年は3名で入山。
神社でお参りをして、安全登山を祈念。
他の登山者は少なかったが、アイスクライマーは何名かいた。
天気はまあまあで寒くなかった。



尾白川吊橋を渡る



2. 歯渡り 11:35
今年は冬型が強いので南アルプスは好天が続きこの4年間で一番雪が少なかった。
例年、この下の笹平辺りでアイゼンを付けるが、今回は歯渡りでも使わなかった。



最初の梯子



甲斐駒は信仰登山の山で祠が多い

この日
登頂の
若い衆



3. 五合目 12:50~13:30

五合目で登頂を終えて下って来た若い衆に会った。
好天で雪が少なく、やや物足りなかったとのこと。
昔、ここには五合小屋があった。名物小屋番の古屋氏がいた。

3年前くらい前まで残骸があったが、今は何も残っていない。

ここから仰ぐ甲斐駒は、威厳に満ちている。

4. 長い梯子 13:35

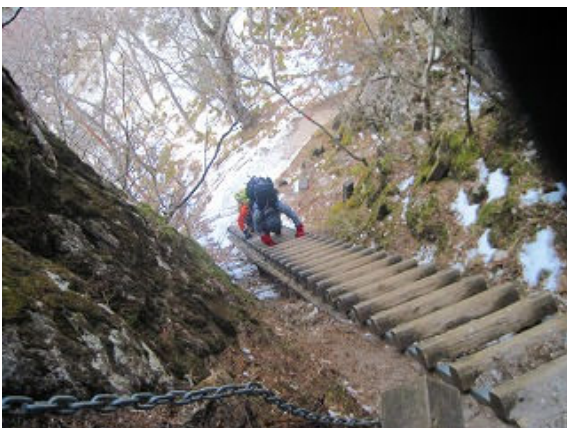
五合目から本格的な登山が始まる。

ここから長い梯子・鎖・ロープの難所が続く。

ゆっくりでいいから、確実に上りたい。

江戸時代の人たちは、ここをよく上ったと思う。

当然、事故に遭った方もいただろう。





垂直の
梯子



4. 七丈小屋
14:50
例年より30分
遅れで小屋着。
小屋周辺の雪は
少ない。



M氏



K氏

G氏



小屋で至福の時
寝具付き素泊り
4500-
ビアロング缶700-
ストーブがガンガン
で、全く寒くない。
夜半から降雪。



G氏の夕食=ガーリック・ステーキ

クジラの
刺身
ニンニクで
食べる





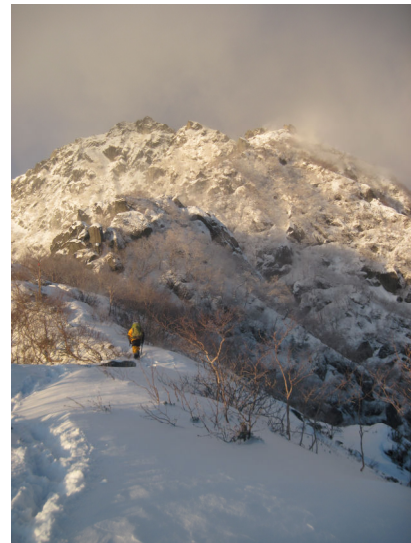
5. 12月30日(金)晴・強風・やや寒

小屋発6:20

夜半から降り続いた雪は朝止んでいた。頭上には星がまたたいていた。ただ、日本海に発生したLの東進とともに冬型が強まり、風はモーレツだった。

今年もまたトップで小屋発。八合まで、ラッセルが続いた。

M氏は不調なので、ゆっくり上ってもらう。



八合付近

6. クラックの鎖場 8:40

一昨年は、雪が多くここの鎖場は完全に雪の中だった。

昨夜の降雪で少し雪山らしくなったが、依然として少ない状態。

ただ、このような所は雪が多い方が上り易い。



九合五勺付近を上るK氏



7. 九合五勺から頂上 8:45

トップは後から来た若い衆に譲った。
この場合、ラッセルのお礼を言うのが
山屋の「仁義」なのだが、最近の若い
衆は礼儀を知らない。
結局、この日2番目で登頂。



K氏



G氏

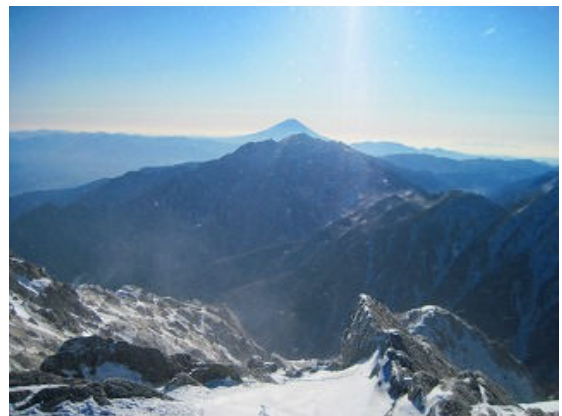


8. 甲斐駒頂上 8:55~9:10

頂上は快晴で360度の展望だった。ただ、
風はモーレツに強い。
もう少し吹いたら登頂は難しかったかも知れ
ない。

写真を撮り早々に下山。九合付近で上って来たM氏と合流。

しかし、ここから往復すると1時間近く掛かってしまう。残念だが登頂は断念。



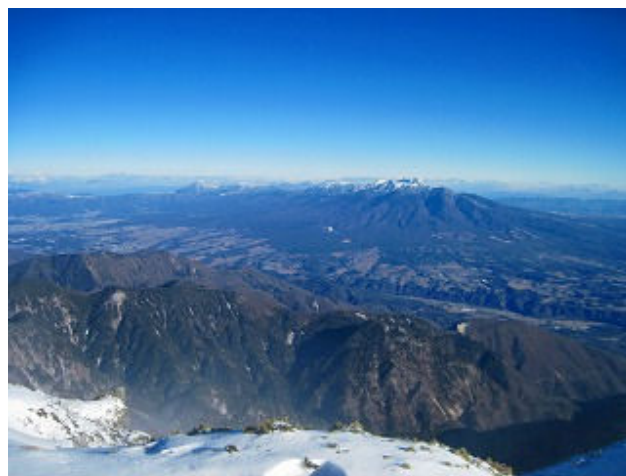
富士山



北岳 (3193m)



仙丈ヶ岳 (3032m)



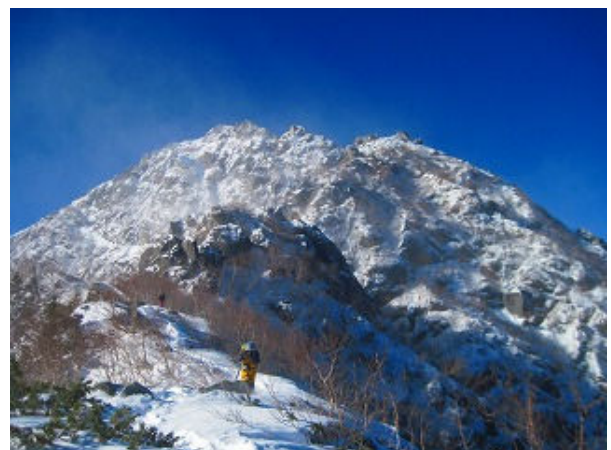
八ヶ岳方面



9. 八合付近 9:45

八合付近は台風並みのモーレツな風。一昨年、I氏と上った時も凄かったが、今回はそれ以上だった。2~3回飛ばされ、よろめいた。

ただ、本格的冬山が初めてのM、K氏には良い経験だった。





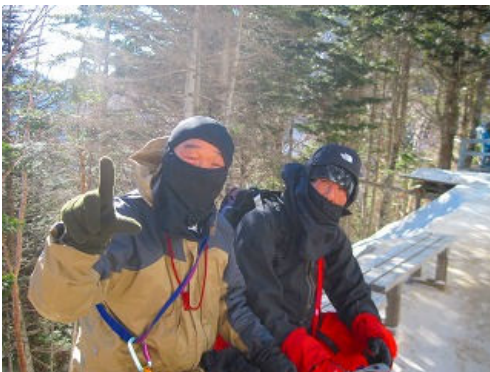
10. テント場 10:15

テント場の若い衆のテントが、余りの強風で飛ばされ、大型ザック・シュラフ・炊事道具一式など、
めて15万??くらい沢に落ちてしまった。
ザックに財布・運転免許証など入っていたが、
根性で50mくらい下って回収したと、後で話していた。



11. 小屋のトイレ 10:18

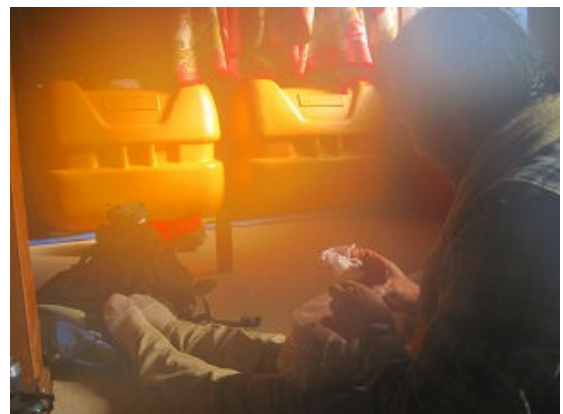
大トイレは外だが、洋式で快適。
ただ、ちょっと狭くて拭きにくい。



12. 小屋着

10:20~11:20

休憩し軽食を摂った。
カップ・ラーメンが美味しかった。
小屋は有り難い。

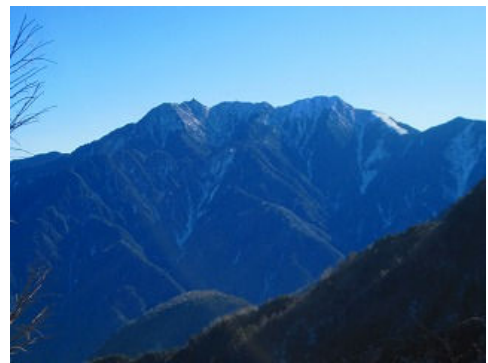




13. 下山 11:30
再び垂直の梯子を下る
慎重に行こう。



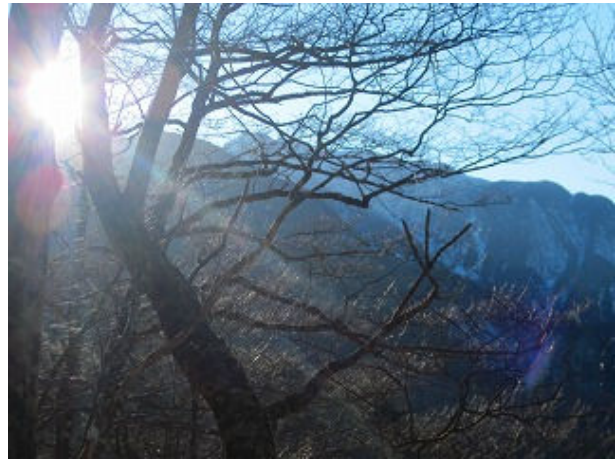
14. 黒戸山下り 12:45
沼津のU田氏に会い、しばし歓談。
二人で入山とのこと。
U田氏のNK山岳会も最近、ハイキング化し
残念との話。



鳳凰山



15. 歯渡り下 13:25
K氏のジュースが完全に氷結していた。
逆さにしても、一滴も流れない。



16. 更に下山 14:30
次第に影が長くなった。
駒を惜しみつつ重い足を引きずる。

16. 駒ヶ岳神社 15:40
ヨレヨレで神社着。長く厳しい道。
これも修行か。
今年も無事終了した。

合掌



駒ヶ岳神社は、神社だが不動明王・菩薩など祀ってある。
親子が正月の支度をしていた。



その他の記述

1. 下山時話した若い衆は、塩見岳まで行きたいと言っていた。
2. "、仙丈ヶ岳まで行って、再び甲斐駒を越えて黒戸尾根を下るとのこと。
3. 下山時、静岡のアイスクライマー3名と会った。
4. 駐車場で韮崎駅から3時間掛け、歩いて来た若い衆がいた。
5. 「尾白の湯」は、30・31日休業だった。代わりに「武川の湯」に入ったが、食堂は廃止だった。
6. 帰りの交通量は、ガラガラだった。

以上